

生産者の声 JAが取組む「自己改革」を実感

JAいるま野では「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を目指し、新規就農希望者からベテラン農業者まで幅広い支援を行っています。JA を利用した生産者の「生の声」をお届けします。

融 資



家族とともに紡いできた農業経営、三人四脚で農業に励む。

家族への贈り物、次代へ繋ぐために父として社長としてできること。

生産者との信頼、JAが果たす役割とは。

家族とともに紡いできた農業経営、三人四脚で農業に励む。

埼玉県坂戸市にある株式会社 原農場は、社長の原伸一さんを中心に家族で小麦や米を約135ヘクタールで栽培する市内でも有数の大規模農家です。原さんは、サラリーマンとして働いていましたが、兄弟の不幸があったことで、2009年に就農を決意。妻と幼い息子とともに、農家の道を歩み始めました。「幼い頃から父の背中を見てきたため、基礎は分かっているつもりでしたが、一

から農業を学ぶと父の苦労や農業の難しさなどが改めて分かりました。専務として社員を、また妻と



して家族の架け橋になってくれた妻の智恵美には、とても感謝をしています」と話す原さん。決して順風満帆ではなく、家族の支えがあり“三人四脚”で頑張ってきたからこそ、今日に至ると当時を振り返ります。

家族への贈り物、次代へ繋ぐために父として社長としてできること。

農業では、農機などを積極的に導入し、効率化に取り組む原さん。次代である息子が昨年就農したこともあり、新たに農業用倉庫を建て、心機一転を図りたいという想いから、さまざまな制度資金を検討しました。そこで着目したのが、農業経営改善のために、施設の取得や運転資金などに活用できる「農業近代化資金」。

以前担当だったJA職員が次長として支店に戻ってきたこともあり、相談をしたことをきっかけに7000万円の融資が動き出しました。「大規模経営をしているため、繁忙期は生産で手一杯でした。そのような中、相談から資料作成の補助に至るまで、JA職員が果たしてくれた役割は大きかったと感じています。特にこの規模の融資はJAいるま野内でも事例が少ないと聞いています。そのような手探りの中でも訪問と検討を重ね、真摯に向き合ってもらえたのは、『生産者のために』という想いを持つJAならではのことだと思っています」そう話す原さんの顔からは笑顔が溢れていました。



生産者との信頼、JAが果たす役割とは。

営農担当や支店の渉外担当など現場職員が熱い想いをもち、支えてくれるからこそ、信頼が生まれ、安心して農業ができると話す原さん。JAでは今後も生産者が持つ悩みにともに向き合い、安心して農業に取り組めるよう努めてまいります。

株式会社 原農場
社長

原 伸一 さま

事業内容

農産物（米・麦）の生産と出荷
● 第55回日本農業賞個別経営の部県代表

Field Notes

原農場さまと関係性の深い支店次長と協力し、過去の事例等を参考にして資料の作成に努めました。私は入職して4年目で

す。まだまだ分からない事案等もあるので、次長や先輩職員の協力のもと、日々業務に取り組んでいます。私が仕事を行う上で心掛けていることは、「いかに組合員の

負担に応えるか」ということです。原農場さまにしても「原さまが農業を行う上で必要なことや、サポートできることはどこか」という点を念頭に置いて、農業近代化資金の

融資を実行しました。今後も経験を重ね、組合員の方から「飯田さんのおかげです」という言葉を頂けるように努めていきたいと思っています。

JAいるま野 坂戸支店
飯田 友樹

